

情報公開文書

研究の名称	免疫組織化学による悪性腫瘍治療標的分子の探索
整理番号	
研究機関の名称	国立大学法人 富山大学
研究責任者	病理診断学 野口 映
研究の概要	<p>【研究対象者】 この研究の対象となる患者さんは、西暦 2005 年 1 月～2019 年 12 月までの間に富山大学附属病院で悪性腫瘍の診断にて生検あるいは手術を実施された方です。</p> <p>【研究の目的・意義】 がん治療は日進月歩で、現在も世界中で多くの新しい治療法やくすりの開発が進められています。しかしながら、完全な治療方法は未だ開発されていません。富山大学医学部病理診断学講座では癌の基礎的な研究を行っています。この研究は、難治性腫瘍として知られている膵臓癌をはじめ、各種癌および前癌病変を対象とし、その特異的な病理組織学的変化や遺伝子異常を調べることで、癌の発生から進展、および転移のメカニズムの解明を目的としています。将来的には、本研究結果が礎となり、臨床応用されることを期待しています。</p> <p>【研究の方法】 過去に当院で治療・検査を受けた患者さんのカルテ等の治療データと病理組織診断を終え、保管されている試料（ホルマリン固定パラフィン包埋（FFPE）標本）を使用します。これまで注目されていなかった遺伝子に着目し、主に免疫組織化学という手法を行うことで、悪性度を規定する因子の検証や新規バイオマーカーの探索を行います。</p> <p>【研究期間】 西暦 2020 年 6 月 9 日～西暦 2025 年 3 月 31 日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 患者さんの情報は、個人を特定できる情報とは切り離れた上で使用します。研究成果は学会発表や学術雑誌で報告されますが、患者さん個人を特定できる個人情報は含みません。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法（他機関への提供の有無）	カルテ情報（病理組織診断名、年齢、性別、身体所見、既往歴、家族歴、血液検査結果、画像検査データ）と FFPE 検体を使用する研究で、新たな検査や費用が生じることはありません。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	研究に使用される試料は富山大学附属病院で管理されます（責任者：附属病院病理診断科 部長 井村穰二）。
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学病理診断学・野口 映

研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む) を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7693 FAX E-mail anoguchi@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学病理診断学・野口 映
--------------------------	---